平成27年度事業実績

本年は、学部に聴覚障害学生が４名合格を果たした。そのため大幅に必要人数が増えた支援者の養成に力を入れた。また大学院修士課程のろう学生が日本初の手話動画による修士論文を提出し、2015 年 9 月 10 日(木)『読売新聞』に、2015 年 10 月 15 日(木)『The Japan News』に報道された。地方自治体では手話言語条例が次々成立しており、2015 年 5 月 19 日(火)『読売新聞』の「手話は言語－普及へ条例」という特集記事で、担当者斉藤の「日本語とは違う独自性」というコメントが掲載された。またますます必要になる支援者の養成を大学として行うことになり、日本初の聴覚障害者支援者養成のための課程「コミュニケーションバリアフリー課程」が文科省にＢＰ（ブラッシュアップ・プログラム）として認可され、ＮＨＫ手話ニュースにて報道された。

１．事業１「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス（一部清瀬キャンパス）にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。昨年始まった「日本手話」が科目に入った聴覚障がい学生枠の入試も二年目となり、その入試で合格した学生等が、一年次から積極的に受講した他、二年次以上の学生や単位互換制度を利用した他大学の学生、また聴講生として社会人も受講した。

年間開講予定科目 20 のうち、上半期は 8 科目開講し、受講生はのべ 14 名であった。下半期は 8 科目開講し、受講生はのべ 177 名であった。ろう学校からの学生にとって母語で教育を受けられる非常に大きな意義のある講座となった。

２．事業２　学内支援

（１）社会福祉学部等の授業における情報保障者の提供

学部では過去最高の４名の聴覚障害の学生が入学し、情報保障の支援者が足りなくなるのではないかとの心配が絶えずあったが、学生の履修を制限することなく支援者が確保できた。この情報保障は、ノートテイク、PC テイク、手話通訳で、対象学生は、学部一年生４名、二年生１名、三年生３名、四年生１名、大学院博士後期課程１名、大学院修士課程 2 名、社会福祉主事養成課程１名、計 13 名であり、支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティングを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。そのため、一部は外部の通訳者を活用した。学生支援者は約 90 名が協力の登録をしている。

（２）社会福祉主事養成課程スクーリングでの通訳者の提供

通信課程については、7 月に行われたスクーリングでは高度な内容を考慮し、手話通訳士資格を有する活動経験の豊富な通訳者にお願いした。

（３）情報保障者養成の実施

養成の事業としては、経験者の学生による講習会を年間で 15 回（合計 52 時間）実施した。また、外部の講師を招いての講習会を 6 回（合計 12 時間）実施した。また学内の学生はふらりとプロジェクト室を訪れても、テイクの練習ができるような雰囲気と体制をつくっている。5

年前数名から始めたパソコンテイクは現在 90 名の登録者があり、そのうち 30 名以上が常時活躍している。

（４）ろう・難聴スペシャルデーの開催

8 月 29 日・30 日、聴覚障害をもつ受験生のためのオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。手話通訳・パソコンテイクつきの進学相談や、支援者および聴覚障害の在学生と高校生やその保護者たちとの交流会も開催した。また、ろう・難聴高校生の学習塾の広報も兼ねて、「出張・ろう難聴高校生の学習塾」という企画を設け、学習塾の講師を 2 名招いて高校生に学習塾の授業を体験してもらった。ろう文化を紹介した書籍やＤＶＤの紹介コーナーも設けた。２日で聴覚障害の学生・保護者ら 10 名に一日キャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。在学中の聴覚障害学生も参加し、高校生へのアドバイスや、大学紹介をしてくれた。

（５）オープンキャンパスでの支援実施

大学で毎年実施するオープンキャンパスでも、来場者の希望するプログラムに手話通訳・PC 通訳を配置した。各回数名の来校者がいた。プロジェクト室のスタッフは必ず出勤し、聴覚障害をもつ高校生の急な参加にも対応できるようにした。初めてろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）が３名来校し、そのうち一人は高校三年生で、実際に入試を受験した。

（６）国家試験対策講座

当事者ソーシャルワーカーの養成として、社会福祉士国家試験の対策講座を 11 月 7 日～12 月 19 日の期間、毎週金曜日に全７回開講した。受験を控えた４年生だけでなく、１～３年生も受講した。また本学学生だけでなく、他大学の学生なども数多く参加し、合計 15 名が参加した。国家試験対策講座は『福祉新聞』（2015 年 12 月 14 日）に取り上げられ、その際に取材を受けた受講生から、国家試験に合格したという報告もあった。

３．事業３「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。１学期・２学期・３学期に加えて、夏期講習、冬期講習・春期講習を開講した。

１学期は 5 月 15 日～7 月 10 日の毎週金曜日、全９回開講し、35 名が参加した。夏期講習は 8 月 22 日・23 日・24 日の３日間開講し、24 名が参加した。２学期は 9 月 25 日～11 月 13 日の毎週金曜日、全８回開講し、34 名が参加した。冬期講習は 12 月 18 日・19 日・20 日の３日間開講し、25 名が参加した。３学期は 1 月 29 日～3 月 11 日の毎週金曜日、全７回開講し、26 名が参加した。春期講習は 3 月 18 日・19 日・20 日・26 日・27 日の５日間開講し、27 名が参加した。

- 1 学期：5 月 15 日（金）～7 月 10 日（金）毎週金曜。9 週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	英語受験	英語標準	国語基礎	数学標準	英語標準	国語受験	数学標準
19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎	英語受験	国語標準	数学基礎

- 夏期講習：8 月 22（土）・23 日（日）・24 日（月）　3 日間。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス		
22 日（土）	18:00-19:20	英語基礎	英語受験	国語受験	数学基礎	英語受験	国語標準	数学標準
	19:40-21:00	英語標準	国語標準			英語標準	国語受験	数学基礎
	21:00-21:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答		質疑応答	小論文	質疑応答
23 日（日）	18:00-19:20	英語基礎	英語受験	国語受験	数学基礎	英語受験	国語標準	数学標準
	19:40-21:00	英語標準	国語標準	数学基礎		英語標準	国語受験	数学基礎
	21:00-21:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答	質疑応答	小論文	質疑応答
24 日（月）	18:00-19:20	英語基礎	英語受験	国語受験	数学基礎	英語受験	国語標準	数学標準
	19:40-21:00	英語標準	国語標準			英語標準	国語受験	数学基礎
	21:00-21:30	質疑応答	質疑応答	質疑応答		質疑応答	小論文	質疑応答

- 2 学期：9 月 25 日（金）～11 月 13 日（金）毎週金曜。8 週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス		
17:30-18:00					面接対策		
18:00-19:30	英語受験	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	国語標準	数学標準
19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎	英語標準	国語受験	数学基礎

- 冬期講習：12 月 18 日（金）・19 日（土）・20 日（日）　3 日間。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス		
18 日（金）	18:00-19:30	英語受験	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	国語標準	数学標準
	19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎	英語標準	国語受験	数学基礎
19 日（土）	18:00-19:30	英語受験	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	国語標準	数学標準
	19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎	英語標準	国語受験	数学基礎
20 日（日）	18:00-19:30	英語受験	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	国語標準	数学標準
	19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎	英語標準	国語受験	数学基礎

- 3 学期：1 月 29 日（金）～3 月 11 日（金）毎週金曜。7 週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	英語受験	英語標準	国語標準	数学基礎	英語受験	国語標準	数学標準
19:50-21:20	英語標準	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語標準	国語受験	数学基礎

● 春期講習：3 月 18 日（金）・19 日（土）・20 日（日）・26 日（土）・27 日（日）　5 日間。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18 日 （金）	18:00-19:30	英語標準	大学英語	国語基礎	数学基礎	英語標準	国語基礎	国語標準	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語基礎	AO 推薦	レポート	数学標準
19 日 （土）	18:00-19:30	英語標準	大学英語	国語基礎		英語標準	国語基礎	国語標準	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	英語標準	国語標準		英語基礎	AO 推薦	レポート	数学標準
20 日 （日）	18:00-19:30	英語標準	大学英語	国語基礎		英語標準	国語基礎	国語標準	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	英語標準	国語標準		英語基礎	AO 推薦	レポート	数学標準
26 日 （土）	18:00-19:30	英語標準	英語基礎			英語標準	国語基礎	国語標準	数学基礎
	19:50-21:20			国語基礎	数学標準	英語基礎	AO 推薦	レポート	
27 日 （日）	18:00-19:30	英語標準	大学英語	国語基礎	数学基礎	英語標準	国語基礎	国語標準	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	英語標準		数学標準	英語基礎	AO 推薦	レポート	数学標準

昨年度に引き続き、1コマ90分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語の授業を開講した。その結果、1 日に受講できる科目は2科目となったが、より丁寧な指導が可能になった。引き続き中学3年生も受け入れ、高校進学の指導も行った。昨年度に引き続き、大学の一般入試を受ける受講生のために冬期講習を 3 日開講した。また、春期講習では来年度受験生になる 2 年生からの要望で、AO推薦対策のクラスを設けた。

大学進学希望の受験生は9名で、8名が大学に合格し、進学した（残り1名は専修大学に合格したが、第一志望ではないため浪人することになった）。受験生のうち3名は日本社会事業大学に合格し、進学した。今年度は受験生に中学3年生から学習塾に参加している受講生が3名、高校1年生から参加している受講生が1名おり、学習塾での指導の成果が出ていると思われる。また、受験生にろう学校の生徒が多く、ろう学校から着実に大学進学者を輩出できていると言える。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2015 年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
亜細亜大学	1 名	中央ろう学校
大正大学	1 名	隠岐島前高等学校
日本社会事業大学	3 名	中央ろう学校・群馬ろう学校・ 坂戸ろう学園
明治大学	1 名	相模女子大附属高校
目白大学	1 名	中央ろう学校
和光大学	1 名	東京学園高校

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。入塾は中学 3 年生からとしているが、中学 1 年生・2 年生からの問い合わせも多い。昨年度同様、中学生であっても高校生よりもレベルが高い場合もあり、学習レベル・年齢が多様化している。今まで通ってきていた受講生の弟・妹や後輩などの参加も多い。

昨年度放送されたＮＨＫ教育テレビ（Ｅテレ）「ろうを生きる・難聴を生きる」を見て問い合わせをしたという受講生が依然として多く、受講生数も 30 名をこえ、講師・教室不足が課題

となっている。
　中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学校、立川ろう学校など比較的近いろう学校に加え、横浜ろう学校、群馬ろう学校からも受講生が通ってきている。毎回の通塾ではないが、時々参加する受講生には福島県から来ている受講生もいた。
　受講生の年齢・レベルが多様化する中で、限られた予算でいかに時間割を作成し指導にあたるかが課題である。
　人数が増えているのは情報保障付きクラスについても同様で、今後希望者全てにPCテイク付の授業を用意することが難しくなる可能性もある。
　課題もあるが、問い合わせ・受講生の増加はそれだけニーズがあるということの表れであり、一人一人のレベルに合った指導を今後も続けていきたい。
　学習塾は基本的に高校生向けであると説明をしているが、中学生以下のろう児の保護者からの問い合わせも急増している。また、学習塾に通えない地方の高校生からの問い合わせも多く、対応を考えたい。

総括

　社会福祉学部は過去最高の４名の合格者を迎え、ろう重複障がい（ろうベースの盲ろう者）がオープンキャンパスに３名参加し、１名が受験するなど、社会の期待が大きくなっている。大学院でも２名の聴覚障害の学生が在籍し、１名は日本初の日本手話による修士論文を完成させて、新聞やＮＨＫテレビで報道された。
　2013 年度、入試への「日本手話」の導入を行い、その入試で入学した初めての学生はインドネシア研修やベトナム研修に参加し、国際ソーシャルワークを学ぶ等、意欲的に活躍しているし、新一年生４名もデフファミリーの学生をはじめ皆聴覚障害ソーシャルワーカーや聾学校の教員を目指している。
　当事者ソーシャルワーカーの養成として重要な国家試験対策は他大学からもニーズが高いため、秋から毎週開催した。
　支援者養成としては、日本初の専門家養成課程「コミュニケーションバリアフリー」が文科省にＢＰ（ブラッシュアップ・プログラム）として認可された。
　さらに学部の入試において多様な聴覚障がいをもつ学生を受け入れられる体制が整ったため、2015 年度には過去最高の学部生４名が入学し、さらに年度末には 2016 年度の入学生が５名合格し、記録を更新した。

事業目標の達成状況：

　目標は毎年平均５名程度（１０年間で約５０名）の聴覚障がい当事者ソーシャルワーカーを育てることである。今年度、学部に4名の合格者が生まれ４名すべてが入学し、年度末には５名の2016年度入学予定者が合格した。日本最古の福祉の老舗大学への入学はハードルが高いことを考えると画期的であった。また修士論文を手話で発表することができ、日本全国のろう者のロールモデルとなった。その卒業生は2016年度から本事業プロジェクト室に勤務することになっている。
　安定した支援者確保は毎年の目標であるが、今年度このプロジェクトの実践を参考にしながら大学として独自の聴覚障害者支援者養成の新課程を設置出来たことは画期的である。

事業成果物：

手話による教養大学パンフレット２種
2016 年度聴覚障がい者入試「日本手話」過去問題 DVD
『読売新聞』（2015 年 5 月 19 日）
『読売新聞』（2015 年 9 月 10 日）
『The Japan News』（2015 年 10 月 15 日）
ＮＨＫ手話ニュース（2015 年 11 月 23 日）
『福祉新聞』（2015 年 12 月 14 日）
ＮＨＫ手話ニュース（2015 年 12 月 29 日）